

脳卒中科



日中は消防局救急隊や医療機関から直接電話で診療依頼を受ける「脳卒中ホットライン」を開設。緊急の脳卒中患者を受け入れている。「脳卒中ホットライン」は県南東部では唯一。遠隔地医療にもさらに取り組むことにしている。



「脳卒中モーニングカンファレンス」には脳神経外科・脳卒中科・リハビリ科の医師全員、看護師、リハビリ療法士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士が参加。現在は院外のケアマネジャーにも参加を呼びかけている。

Report!

チームの力で脳卒中に挑む

by 川崎医科大学附属川崎病院



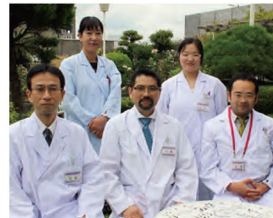
井上 剛 准教授
Takeshi Inoue
■専門医・指導医
日本内科学会認定内科医、
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
■専門領域・得意分野
神経疾患全般、脳卒中全般

多忙を極める井上准教授。オフの過ごし方を尋ねると意外にもパソコン作り。「プラモデルを作る感覚です。CPUやHDD、マザーボードなどを取り寄せてコソコソ作っています。1日で作れますよ。人に頼まれたものも含め、今まで30台くらい作りました。日々の業務だけでなくオフも好奇心旺盛に過ごされている。

医療 >>> vol.40 最前線

脳神経外科

現在、当科ではより専門的な知識が必要とされる脳下垂体の腫瘍に対しても内視鏡を用いた外科治療を実施。そのベースとなっているのが小野教授の200近い症例(通常の地方中核病院は年間2~5例程度)。チームとして高い技術を構築している。



中学で始めたバスケットは大学まで続けたそう。アメリカ留学時はシカゴへ。あのマイケルジョーダンを生で観戦したことが忘れられない思い出と言う。「最近将棋。アマチュア4段です。日曜大工も好きで収納ケースなどを作っています。もともとモノづくりが好きなんです」と笑顔で語る。

小野 成紀 教授
Shigeki Ono
■専門医・指導医
日本脳神経外科学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医、卒後臨床研修指導医
■専門領域・得意分野
脳血管障害、頭蓋底腫瘍、小児脳神経外科、神経内視鏡



Report!

治してみせるという思いを胸に

by 川崎医科大学附属川崎病院

あらゆる種類の脳神経疾患を広くカバーする診療体制を目指す。

「当科の特徴は、二四時間三六五日、岡山市内はもちろん、近隣のみならず健康を守るべく、脳神経疾患の一次救急から高度な治療を必要とする三次救急まで患者さんや開業医の先生方の幅広いニーズに応える診療体制を敷いている点です」と語るのは、脳神経外科の小野成紀教授。小野教授は、脳の深部にできたがんや腫瘍の摘出に対し、特殊な技能が必要な神経内視鏡を駆使して、これまで多くの症例を手がけてきた脳の専門医。ある意味、人間の生死に関わる疾患を扱う当科を高い技術とリーダーシップで率いている。現在一般的な脳外科手術から高度な技量を要する手術まで、あらゆる種類の脳神経疾患に対処している当科。ともすればその高い専門性が注目されがちだが、小野教授自身はまた違う思いを抱いている。

「脳神経外科は、みなさんが思われている以上に守備範囲が広い診療科です。だからこそ当科は専門分化されすぎない、脳神経分野を広くカバーする診療体制の構築を目指しています。もちろん私たちは外科医ですから当然、技術が必須。でもそれに加えて「治してみせる」という強い思いが大切です。だからスタッフにはいつも「患者さんの目を見て話そう」と言い続けています。それが正しい治療、信頼関係を築く第一歩だからです」。

豊富な経験を生かした信頼性の高いチーム医療を提供。

「脳卒中は日本人の死因では、がん、心疾患、肺炎に次いで四位。当科は救急の脳卒中患者を治療するため、二〇一三年に新設されました。岡山市を含む県南東部の医療機関では数少ない科です」と語るのは、脳卒中科の井上剛准教授。現在、井上准教授は当科を率いながら、「脳卒中ホットライン」や地域連携バス運用会議「も脳ネット」の事務局を運営するなど、院外でもその高い技術と経験を生かした活動を続けている。近年、超音波検査や脳血管内治療の普及により、死亡率そのものは低下傾向にある脳卒中。なかでも現在、当科が積極的に取り組んでいるのがtPAという薬を使った血栓溶解療法。

「二〇〇五年にtPAで脳に詰まった血栓を溶かす治療が日本でも開始されました。現在、当院ではtPA治療を中心に行なっていますが、この治療も脳梗塞が起って四時間半以内に開始しないと効果がありません。tPA治療には豊富な経験が必要です」。現在、当科では情報共有のため毎朝、各専門スタッフが集い、入院中の全患者一人ずつの治療について検証確認を行なっている。「各職種が全力を尽くし、患者さんにベストなチーム医療を提供しています」。井上准教授を中心に脳卒中チームの挑戦は続く。

お問合せ
川崎医科大学附属川崎病院
0862252111
<http://www.kawasakimc.jp/kawasakip/>